



名古屋部会(第9回)

日 時：	2016年11月26日(土) 15:00 ～ 17:10
場 所：	椋山女学園大学星が丘キャンパス(名古屋市千種区)
参加者：	中学校・高等学校・大学の先生方など13名が参加した。

【内容要旨】

椋山女学園大学星が丘キャンパスの教室を水野先生の手配により会場としてお借りし、第9回の名古屋部会を開催した。

第9回の名古屋部会を経済分野の授業の実践事例や教材の紹介を目的に開催した。最初に水野英雄(椋山女学園大学現代マネジメント学部准教授)より開会の挨拶があり、その後で参加者の自己紹介を行った。

水野英雄(椋山女学園大学現代マネジメント学部准教授)から経済を学んでいる女子大学生「エコジョ」が学校で中・高校生にわかりやすく経済や金融を教える取組をSMBCコンシューマーファイナンス株式会社の仲介で行っており、愛知県立南陽高等学校で「教えあい・学びあい交流授業」を実施した報告があった。大学生は高校生に身近な問題として奨学金問題等を取り上げて人生におけるお金の問題をわかりやすく説明した。高校生からは消費者トラブルの防止についての提案があった。この取組を各学校に広げていきたいため、実施を希望する学校があれば是非協力したいとの説明があった。

続いて、3つの授業実践の発表が行われた。佐藤央隆氏(名古屋市立はとり中学校)より「江戸時代の経済政策を比べよう」をテーマに歴史授業の中での経済に関する授業実践の紹介を行った。授業では江戸時代の徳川吉宗・田沼意次、松平定信の経済政策を比較し、班に分かれてその特徴をまとめキャッチフレーズを考え、理想のリーダーを選ぶことで、合理的な意思決定や立場の相違によって異なった政策が選択されることへの理解を行った。当日の授業に参加した新井明氏(上智大学)からは政策の相違と各立場からの評価を明確にして教えることが必要というコメントがあった。尚、この授業実践は証券普及プロジェクトの『レインボーニュースVol.32』「ユニーク授業紹介」に掲載される予定である。

埴枝里子氏(東京都立府中東高等学校)より「交換の経済学～交換はいつでも利益を生むって本当?!～」をテーマに、比較生産費説を国内の問題を用いて教える授業実践の紹介を行った。教科書では比較生産費説を国際経済(貿易の意義)にて扱っているが、機会費用の概念を用いて国内の個人の問題に援用することで自らの在り方や生き方を考察するような視点を持たせることができ、誰でも特徴や特技を活かして集中することで利益があり、各自がそれを全うすることで社会参画できるという授業の展開が示された。

中根大志氏(聖カピタニオ女子高等学校)より「「株式学習ゲーム」と「株式会社調べ」の実践」をテーマに授業実践の紹介を行った。アクティブラーニングとしての株式学習ゲームや株式会社調べによって生徒は社会に目を向けるきっかけとなり、日々のニュースに対する関心も高まった。また、「将来、株を買ってみたい」という生徒の感想もあり、知的好奇心も高められた。

最後に、新井明氏(上智大学)より経済教育ネットワークの活動、特に東京部会での取組の紹介と自身の授業実践の紹介が行われた。



各氏のお話の後には活発な議論を行った。最後に、水野英雄（椋山女学園大学現代マネジメント学部准教授）より名古屋部会な活動のより一層の発展への協力の依頼があった。

次回については1月21日（土）に椋山女学園大学にて開催することとした。

文責： 水野 英雄

次回開催予定： 2017年1月21日（土）15:00 ～17:00に、場所は椋山女学園大学星が丘キャンパス（名古屋市）。議題は、教材の紹介や経済教育の進め方に関するディスカッションほか。